

ひかりのこ

3月園便り

認定こども園
聖ミエル幼稚園
2021年2月12日

月主題：希望をもって

「幸福だった時間に気づくとき」

私事ですが、この3月で、やっと次男が大学を卒業し、家を離れ、遠く仙台の地で仕事に就きます。長男、長女、次男、3人の子どもたちは、これでみんな独立することとなりました。私自身31年間のお母さんとしての生活を卒業します。

次男は、体が小さくて保育園ではよく泣いて、保育士さんを独占していたようです。行事写真を見返すと、先生に抱っこされている写真がとっても多いのです。虫が大好きで、保育園にお迎えに行くといつも建物の陰でダンゴムシをどっさり捕まえていました。

私と夫は、家事と育児、そして仕事との両立。子どもたちが熱を出すと、よく夫とどちらが休むか、喧嘩をしたものです。平日は忙しかったけれど、休日には、家族はできるだけ一緒にいて、キャンプに行ったりドライブをしたり、歌を歌ったり、ぎゅっと固まって過ごしていました。夫は育児に協力的で、夜寝る時によく物語を子どもたちに読んでいました。

いろいろ大変なことはあったはずなのに、振り返れば、子どもと過ごした、宝石のように輝く、幸福な時間として思い出されず。

私はよくお父さん、お母さんに「子育てしている今が一番いい時よ。」と言います。毎日を忙しく生活しているお父さん、お母さんにとってはなかなか実感が持てないかもしれません。もしかしたら、喜びよりも悩みや苦しみが勝るときもあるかもしれません。でもやっぱり、あとで振り返ってみたら、子どもと過ごせた時間は何よりも幸福な時間となるだろうと思います。

幼稚園の先生たちもそうです。先生たちの毎日の日誌を読むと、たくさんの悩みや反省とたくさんの喜びといった「思い」が子どもたちの出来事と共に書かれています。子どもたちに寄り添い、悩みながらも、明日の保育をより良くしたい、という「思い」。

そして必ず毎日、主任がアドバイスや、励ましの言葉を添えてその「思い」に返してあげています。きっと一年を振り返った時、様々なことをひっくるめて、宝物のような時間だったと感じると思います。ご家庭での皆様の「思い」と幼稚園の先生たちの「思い」に包まれて子どもたちは大きくなるのです。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「何度でも起き上がれ」

僕が通った高校のそばに八起食堂という小さな食堂がありました。多分、店主のおじさんが八起さんだったからだと思うのですが、僕にはどうしても七転び八起きの「八起」に思えるのでした。部活で疲れ切り、腹ペコで我慢できない時、よく350円ほどの学生ラーメンを食べて帰ったものです。食堂に通ったのは単に空腹を満たすだけでなく、おじさんに会うためでもありました。とても気さくな人で、高校生たちをよく励ましてくれました。勉強も部活も「何度でも起き上がれ」と。僕も何をやってもパッとしない自分に失望していたので、八起のラーメンは心の元気も与えてくれました。

さて、今年は4月4日にイースター（復活日）を迎えます。今年のイースターは、きっと世界中で特別な思いで迎えることになるでしょう。コロナウイルスによって傷つき、被害を受けている無数の人々、疲れ切ってしまった人々の存在は、すでに神様の視野の中に、憐れみとともにしっかりと捉えられています。イースターは希望の日です。十字架につけられ、死に、二度と起き上がれない者とされたイエス様が、再び起き上がったのです。それを架空の出来事と思えばそれで終わります。しかし、その力を私にも分けて下さいと願えば、必ず与えられます。親が子を見放さないように、神様は私たちを見放すことはありません。こんな時こそ、イースターを喜んで迎えたいものです。七転び八起き。

チャプレン 司祭 下澤 昌